

2 地域経済の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まりつつある。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みている。
- ・ 雇用情勢は厳しさを増している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成14年8月）	今回（平成14年11月）	
鉱工業生産	緩やかに増加	おおむね横ばい	↓
観光	持ち直しの動きが続いている	持ち直している	↑
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	↓
雇用情勢	依然として厳しい	厳しさを増している	↓

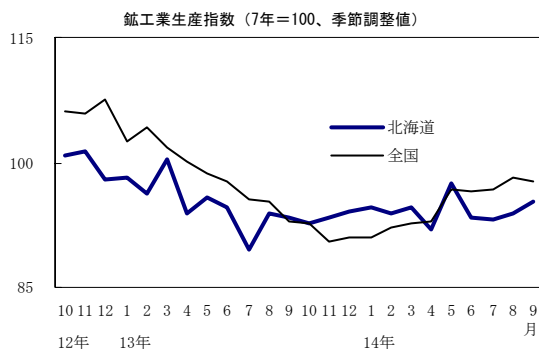
1. 生産及び企業動向

- (1) 第一次産業は、生乳生産、水産業ともに前年を上回っている。

生乳生産は、飲用牛乳向け、乳製品向けともに増加したことなどから、前年を上回って推移している。
水産業（主要10港）は、数量は前年を下回ったものの、金額は前年を上回っている。

- (2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、全体的に底固く推移している。紙・パルプは9月に定期修理の影響などからマイナスとなったものの、チラシや雑誌向けの印刷用紙、アジア向けの新聞用紙などが好調であり、7～9月期は増加している。窯業・土石は公共工事関連需要の低迷から、コンクリート、セメントなどがおおむね横ばいである。金属製品は鉄骨、アルミ缶等の低迷により、減少傾向にある。電気機械は、無線通信装置、情報通信機器向けが低迷したことで前年割れで推移したが、9月にはプラスに転じた。



（備考）平成14年9月の北海道は速報値。

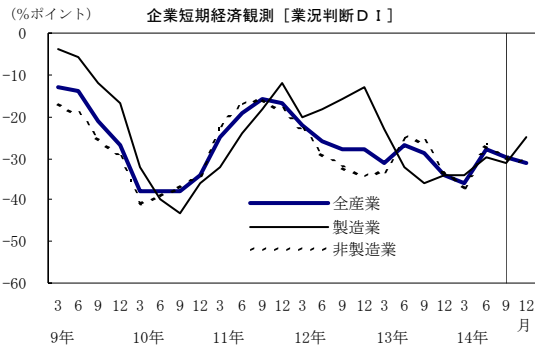
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
食料品・たばこ	24.2	▲0.9	3.9	1.6	6.4
紙・パルプ	13.1	1.5	4.7	▲0.3	9.2
窯業・土石	10.8	▲5.6	0.2	0.0	▲3.7
金属製品	8.4	▲1.7	▲8.6	▲6.2	5.5
電気機械	8.0	▲2.7	▲5.1	▲3.4	▲9.3
鉱工業	100.0	▲0.1	▲0.5	▲0.9	2.0

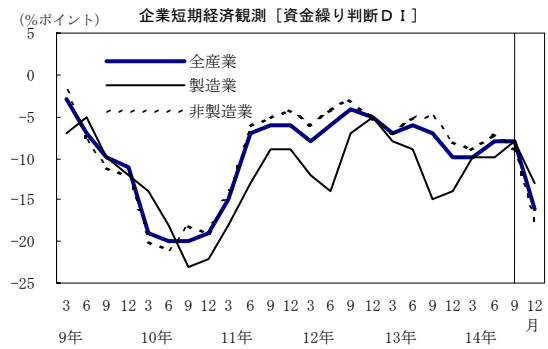
- （備考） 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7～9月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

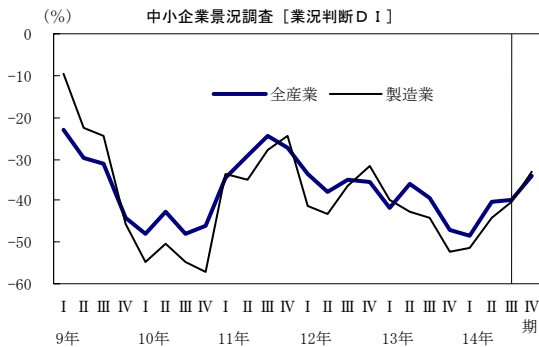
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考) 「良い」 - 「悪い」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「楽である」 - 「苦しい」 回答者数構成比。12月は予測。



(備考) 「好転」 - 「悪化」 回答者数構成比。14年IV期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「景気動向として受ける感触はそう悪くは感じないが、3か月前との比較では受注価格の低下もあり、横ばいの印象となっている (通信業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

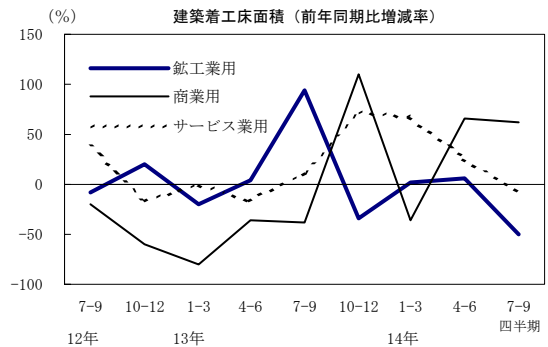
(4) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

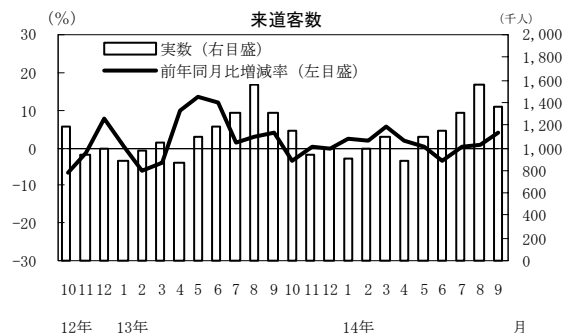
	13年度実績	14年度計画
全産業	▲12.2	▲3.8 (8.7)
製造業	▲17.3	▲5.4 (22.2)
非製造業	▲9.4	▲3.0 (3.2)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は持ち直している。

来道客数 (前年同月比) は、7～9月期は1.7%増となった。テレビドラマ最終回や大規模な学会・大会などに伴う来道、安価なバック旅行の増加に伴う来道、台湾・香港を中心に海外からの観光客の増加がみられ、持ち直しの動きが続いている。



(備考) 北海道観光連盟調べ。

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

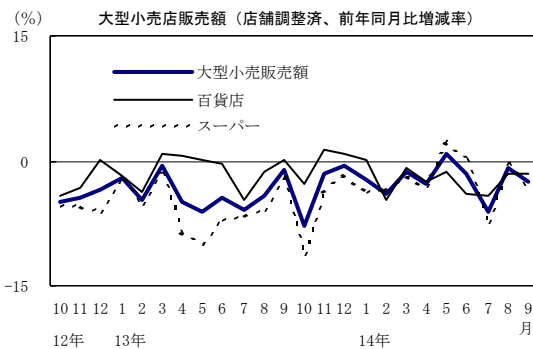
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月にクリアランスセールの前倒しによる反動により前年割れした後、8月には気候要因によって秋物衣料品の動きが早く、9月にプロ野球優勝セールの効果等があったが、地域によるバラツキもあり、全体では前年割れであった。

スーパーは、8月には気候要因によって衣料品の動きがみられたが、7～9月期を通して主力の飲食物品が伸び悩んだことから、前年割れとなっている。

景気ウォッチャー調査（10月調査）〔家計動向関連D I（現状判断）〕

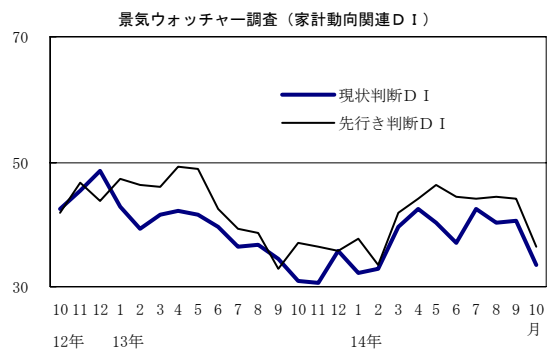
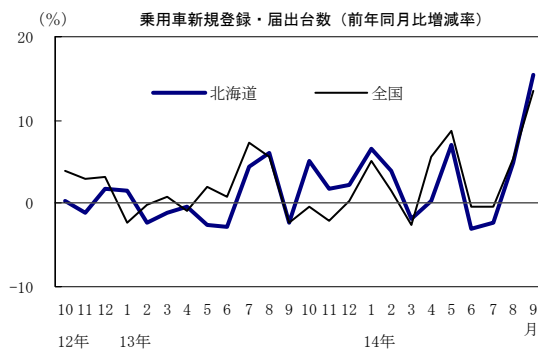
「客を見ている限り、欲しいものを買いたいという意欲が低いようであり、購買意識が低く、また購買点数も1、2点と少なくなっている（一般小売店[土産]）」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	▲3.1	▲2.4	▲0.6	▲3.3
百貨店	▲0.1	▲1.5	▲2.6	▲2.5
スーパー	▲5.1	▲3.0	0.7	▲3.8
乗用車	3.1	1.3	1.1	5.9
景気ウォッチャー	32.5	34.9	40.0	41.1

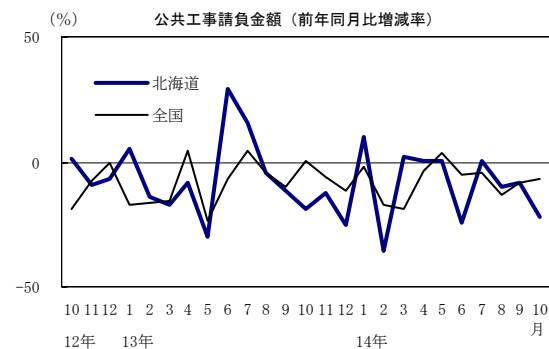
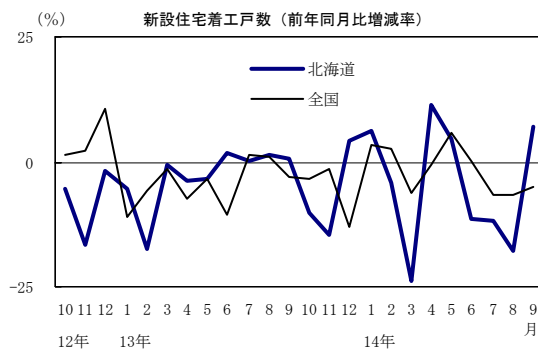
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は緩やかに減少している。

持家、分譲を中心に前年を下回ったことから、緩やかに減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

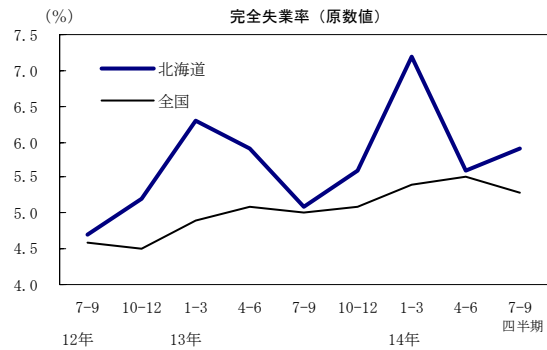
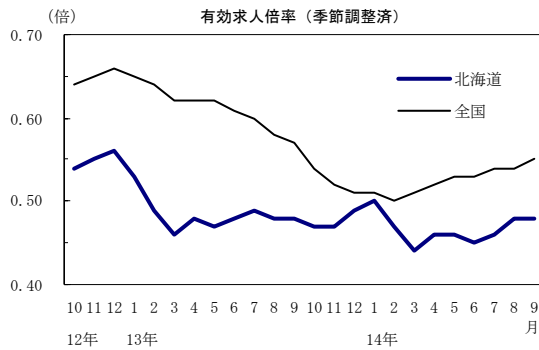


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しさを増している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査) [雇用関連 (現状判断)]

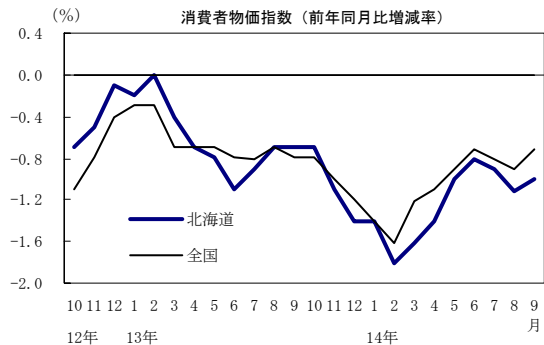
「大型店の出店による小売業の求人の増加や、介護関係やアウトソーシングなどの求人が前年を大幅に上回り全体としても前年比10%の増加となっている (求人情報誌製作会社)」など、「やや良くなっている」とする回答とともに、「変わらない」とする回答も多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年10-12月	14年1-3月	4-6月	7-9月	10月
倒産件数 (前年比)	203 12.2	201 ▲16.6	186 ▲2.6	182 ▲10.8	56 ▲23.3
負債総額 (前年比)	618 ▲9.4	887 25.2	596 ▲84.5	448 ▲55.1	724 372.8



○ 景気ウォッチャー調査 (10月調査) [合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・防寒需要の月だが、これといった流行もないため昨年のもので間に合わせている客が多く、客の動きに変化がみられない (商店街)。

<先行き>

・タクシー利用客の話聞いていても、景気が少しでも良くなるような話はなく、これから冬に向かう北海道では観光シーズンも終わり、また、イベントの開催もなく、景気が良くなる要素がない (タクシー運転手)。

